



開館50周年記念
まほろば
プロムナードコンサート
Mahoroba Promenade Concert
2018

2018.11/18(日) 奈良県文化会館 国際ホール

〈主催〉奈良県文化会館

〈協力〉奈良フィルハーモニー管弦楽団事務局・特定非営利活動法人ワールドシップ

まほろばプロムナードコンサート2018

国際ホール 17:00開演

オール	第一部	「コリオラン」序曲 ハ短調 作品62
ベートーヴェン		交響曲第8番 ヘ長調 作品93
プログラム	～休憩～	
	第二部	交響曲第7番 イ長調 作品92

〈指揮〉三ツ橋 敬子

〈管弦楽〉まほろば祝祭管弦楽団

〈メンバー〉

第1 ヴァイオリン

田野倉 雅秋 (大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスター)★
岩谷 祐之 (関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)★
相原 瞳 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)
伊藤 瑛紀 (大阪交響楽団団員)
里屋 幸 (大阪交響楽団アシスタントコンサートマスター)
原田 詩穂 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)

第2 ヴァイオリン

池原 衣美 (日本センチュリー交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者)
釋 伸司 (京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター)☆
平野 慈子 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)
増永 花恵 (関西フィルハーモニー管弦楽団第2ヴァイオリン首席奏者)
吉岡 克典 (大阪交響楽団団員)

ヴィオラ

坂口 雅秀 (大阪交響楽団団員)☆
辻田 結城彦 (奈良フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)
中嶋 悦子 (関西フィルハーモニー管弦楽団特別契約首席奏者)
南條 聖子 (大阪交響楽団団員)

チェロ

伊原 直子 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)
向井 航 (関西フィルハーモニー管弦楽団特別契約首席奏者)☆
崎元 蘭奈 (アンサンブル神戸メンバー)

コントラバス

渡戸 由布子 (大阪交響楽団副首席奏者)☆
松本 友樹 (フリーランス)

〈スタッフ〉

運営

大原 末子 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団長)

運営アシスタント

山際 新

ステージマネージャー

鈴木 秀一郎

〈案内役〉堀江 政生 (朝日放送テレビアナウンサー)

フルート

本庄 ちひろ (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)☆
井上 登紀 (大阪フィルハーモニー交響楽団団員)

オーボエ

前橋 ゆかり (奈良フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)☆
廣瀬 裕美 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)

クラリネット

西川 香代 (奈良フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)☆
近藤 正也 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)

ファゴット

小西 朋子 (奈良フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)☆
植田 志穂 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)

ホルン

高橋 将純 (大阪フィルハーモニー交響楽団トップ奏者)☆
小坂 智美 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)
海塚 威生 (奈良フィルハーモニー管弦楽団団員)

トランペット

福中 明 (奈良フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)☆
岡野 圭児 (元日本センチュリー交響楽団団員)

ティンパニ

奥村 隆雄 (元京都市交響楽団首席奏者)

※弦楽器奏者はコンサートマスター(★)以下は
パート毎にあいうえお順で記載(☆は本日首席を担当する奏者)

制作

内田 一成 矢田部 陽子

制作協力

フューチャーデザイン

輸送

木村運送

Program & Program note

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ベートーヴェン(1770-1826)は、モーツァルトやハイドンらと同じ古典派の時代にドイツに生まれた。20代の頃より聴覚を失いはじめるなど、苦悩を抱えつつも、ロマン派音楽の先駆けたる作品を数多く遺した。当時、交響曲は日常的に消費され、ハイドンが100曲以上、モーツァルトが約60曲もの交響曲を作る中、彼が生涯に残したのはわずか9曲だけである。モーツァルトが8歳で最初の交響曲を書いたのに対し、彼が交響曲に取り組んだのは、29歳の頃であり、いかに慎重に交響曲を創作したかが伺える。本公演にて演奏される交響曲第七番と第八番は姉妹的な作品であり、それまでの交響曲の統一感偏重の理念から、リズムの扱いに重きが置かれており、緩徐楽章は廃止されている。

『コリオラン』序曲 ハ短調 作品62 (1807年)

舞台劇『コリオラン』のために書かれた序曲であり、ローマの英雄コリオラスの悲劇を描いている。同じハ短調である交響曲第五番『運命』との類似性が散見され、激情的な音楽に傾倒した作品である。幾度となく現れる、不意に断ち切られる総休止が、コリオラスの運命を描き、ドラマティックな印象を与える。第一主題では、英雄の野心的な男性性を表しており、弦楽器、木管楽器によって歌われる第二主題では対照的に、母親や妻の母性的で優雅な性格が表現されている。緊張感が緩まぬ中間部、再現部を迎えた後、悲劇の最後はファゴットの10小節を超えて持続するト音を経て、三度の弱音でのピチカートによって締めくくられ、これは英雄の絶命を表すとされている。

『交響曲第8番』へ長調 作品93 (1812年)

この曲は第七番と同年に書かれたが、第七番のような力強さはない。彼はこの曲をあえて古典に回帰し簡潔にすることで、交響曲の新しいあり方を求めた。第七番と比較して規模が縮小されているものの、「優れた曲である」と作曲家自身が語っているように、繊細さや緻密なバランスに優れた非常に美しい作品である。

第一楽章…序奏はなく華やかに始まり、軽妙な旋律がヴァイオリンによって奏でられる。弦楽器と木管楽器の織りなすハーモニーが実に精緻で単純ながらも美しい古典的な美が随所に見られる。

第二楽章…これまた軽妙で楽しげな旋律によるリズムミク的な楽章であり、当時考案されたメトロノームの音から着想を得たとされる。ピアノとフォルテによる陰影がユーモラスに配置されている。

第三楽章…古風なメヌエットであり、ヴァイオリンの美しいメロディが楽しげな雰囲気を出す。トリオにおいてはホルンやクラリネットにより美しい響きが紡がれる。

第四楽章…早いリズムの元に、力強さと喜びに満ちたユーモラスな旋律が展開される。この楽章でも、強弱が色濃く強調されている。結尾においては一小節に一和音ずつが打ち込まれ力強く華やかに結ばれる。

『交響曲第7番』イ長調 作品92 (1811-1812年)

ベートーヴェンが本作に着手するまでの数年間は、財政的な苦境や失恋など、多くの苦難と直面したが、次第に安らぎを取り戻し、明朗さを作品に反映させた。特にこの曲では、明快なリズムへの固執が見られ、ワーグナーはこの曲を「舞踏の神格化」と呼んだ。推進力を伴ったリズムにより、全曲を通して躍動感が統一感を際立たせている。

第一楽章…ゆったりとした序奏では各楽器が美しくソロを奏でる。フルートと弦楽器がホ音で呼応しあった後、朗らかに明るいフルートの旋律に乗り、軽快な付点のリズムが終始、際限なく繰り返され、楽章全体を包み込む。

第二楽章…四分音符一つと八分音符二つのリズムが曲を支配し、憂いを帯びた叙情的な旋律が切なく訴えかける。中間部では長調に転じ、幸福感を帯びた旋律がクラリネットにより歌われる。フーガと激情を通り抜け、次第に鎮まる。

第三楽章…スケルツォに相当する楽章。強弱のメリハリが激しく、実に軽快でありつつも、トリオでは民謡的な旋律が歌われる。これはオーストリアの巡礼の歌によると言われている。最後は劇的に終わり、終楽章へと繋がる。

第四楽章…力強い和音の後、アイルランド民謡によるとされる旋律をヴァイオリンが奏でる。本来、弱拍とされる二拍目が強調されるなど、執拗にリズムが強調され、クライマックスも疾走感はず減せず駆け抜けて、幕を降ろす。

[特定非営利活動法人ワールドシップ 農澤 明大]

Profile

〈指揮〉

みつはし けいこ
三ツ橋 敬子



東京藝術大学及び同大学院を修了。ウィーン国立音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。小澤征爾、小林研一郎、G.ジェルメティ、E.アツツェル、H=M.シュナイト、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。2006年トスカーナ管弦楽団とのツアーを指揮してヨーロッパデビュー、2007年ミラノ・ジュゼッパ・ヴェルディ交響楽団にてオペラデビューを果たした。2008年第10回アントニオ・パドローティ国際指揮者コンクールにて優勝。併せて聴衆賞、パドローティ協会賞を受賞し、最年少優勝で初の3冠に輝いた。2010年第9回アルトウーロトスカニーニ国際指揮者コンクールにて女性初の受賞者として準優勝。併せて聴衆賞も獲得。これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、京都市交響楽団等と共演している。2016年から、神奈川県立音楽堂にて「三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ」がスタート。神奈川県フィルハーモニー管弦楽団と共に子供たちへ多彩な音楽体験を届ける企画内容が好評を得ている。

〈管弦楽〉

まほろば祝祭管弦楽団

晩秋の古都奈良に関西のプロフェッショナルオーケストラで活躍する首席奏者たちを中心に素晴らしいメンバーが集結。今年のまほろばプロムナードコンサートは、奈良県文化会館の50周年を記念し、シリーズを支えてきた奈良フィルメンバーのほかスペシャル編成される「まほろば祝祭管弦楽団」の演奏によるオール・バートーヴェン・プログラムをお届けします。

〈コンサートマスター〉

たのくら まさあき
田野倉 雅秋 (大阪フィルハーモニー交響楽団 首席コンサートマスター)



東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学に進学。その後ジュリアード音楽院へ留学。1995年日本音楽コンクール第2位、1998年米国コロラド州のアспен音楽祭でのコンチェルトコンクール優勝、2000年第6回カール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクール優勝など数多くの著名コンクールで優勝、上位入賞を果たしている。ソロ活動の他にも室内楽奏者としても精力的に活動している。2004年広島交響楽団のコンサートマスターに就任(2014年3月退任)。2012年4月より名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。併せて2012年9月より大阪フィルハーモニー交響楽団特別客演コンサートマスターを経て2014年4月より同団首席コンサートマスターに就任。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団等、日本有数のオーケストラに客演コンサートマスターとして出演し、その信頼は厚い。京都市立京都堀川音楽高等学校非常勤講師。

〈コンサートマスター〉

いわたに すけゆき
岩谷 祐之 (関西フィルハーモニー管弦楽団 コン서트マスター)



4歳からヴァイオリンを始める。東京音楽大学附属高校にて久保陽子氏に師事。1997年よりアメリカへ留学。1999年日本音楽コンクール第1位。併せて松下賞、鷲見賞、レウカディア賞を受賞。2001年よりフランスへ留学。2003~04年フランス国立放送響の2ndヴァイオリン首席奏者を務める。2005年帰国、兵庫芸術文化センター管弦楽団のフォアシニプレーヤーを務める。ソロ、室内楽、オーケストラ公演にコンサートマスターとして客演などで活躍。これまでに関西フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、京都市交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団と協奏曲で共演。2008年より関西フィルのコンサートマスター。2010年、TOKI弦楽四重奏団の1stヴァイオリン奏者に就任。2013年には大阪、名古屋、東京でリサイタルを開催し絶賛を博す。2012年より毎日新聞主催日本学生音楽コンクール大阪大会の審査員を務める。平成21年度兵庫県芸術奨励賞、平成24年度咲くやこの花賞を受賞。

〈案内役〉

ほりえ まさお
堀江 政生 (朝日放送テレビ アナウンサー)



1989年朝日放送入社。テレビで夕方のニュース番組や情報番組「ムーブ!」などを担当した。その後、朝日新聞東京本社に出向し政治担当の記者を経験する。クラシック音楽ファンで、現在、ABCラジオ「堀江政生のザ・シンフォニーホールアワー」(毎週日曜日 朝7時5分~)に出演中。本人は楽器ができないが、3人の子どもがチェロ・ヴァイオリン・ピアノをしている。奈良では、これまでにミュージックフェスト奈良「12人のチェロ」公演の司会者を務めるなど、奈良県文化会館の舞台に何度も登場しており奈良県のファンも多い。